

デーリー東北
2019年(令和元年)10月10日(木曜日) (15)

防災テーマに情報共有

ハ工大 カザフの大学とフォーラム



十和田市でトンネルの仕組みなどを見学した
両大の関係者 (ハ工大提供)

ハ工大とカザフスタンのユーラシア国立大との科学フォーラムがこのほど、約1週間にわたってハ工大などで開かれた。「持続的都市開発と防災」をテーマに、同大の教員や学生、大学院生ら約60人とユーラシア国立大側の参加

者9人は、講演会やトンネル見学などを通して情報共有を図った。

昨年引き続き2度目の開催で、八戸市市制施行90周年

記念事業の一環。ユーラシア国立大が所在する首都ヌルスルタン市は、青森県の災害環境と似ており、地震や土砂崩れ、泥流などに対する防災技術や研究の学術交流として実施された。

初日は開会式が行われた後、両大の発表者が防災、地盤工学などについて講演。ハ工大の学生、大学院生はそれぞれ、斜面災害の数値解析手法などに関するポスター発表も行った。翌日は六戸町や十和田市のコンクリート製造やトンネル工事現場を見学した。

ハ工大の長谷川明学長は「学生たちは英語で交流するいい機会だった。ユーラシア国立大にとってはインフラの将来的なメンテナンスについて技術を深められたと思う。引き続き交流を継続していきたい」と話した。(稲村安莉)